

## 牧本次生氏紹介

BIS 研究会 2023.6.1

西村雅男

ご指名をいただきました西村です。

牧本次生さんを皆様へご紹介できるということは、私にとっては大変光栄なことでございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず学歴から申し上げますと、牧本さんは鹿児島ラ・サール高校の出身で4期生です。この会の中川会長は3期生、私は4期で同期生というご縁です。

また牧本さんは、スタンフォード大学の電気工学科修士、東京大学での工学博士でいらっしゃいます。

お仕事は 日立製作所で半導体事業部長、専務取締役。

日立からソニーに移られて執行役員専務。

その後、半導体産業人協会会長・理事長などを初め、多くの団体に関わっていらっしゃいます。つまり、日本の半導体事業を一身に背負って、リードしてこられた方です。

牧本さんはかねがね「一国の盛衰は半導体にあり」とお話されていて、本にもしておられます。

アメリカは今中国と厳しい対立をしています。もう40年も前になりますけれども、実は日本もアメリカから厳しい制裁を受けていました。

当時日本は半導体の生産で5割のシェアをとり、アメリカは4割を割っていました。もっとも代表的なメモリの DRAM では、世界市場の8割を日本が占めていました。アメリカはここで大きな危機感を持ち、巻き返しに動きます。

1986年に日米政府間で日米半導体協定が結ばれました。しかしアメリカはたった半年で、パソコン、カラーテレビ、電動工具などに100%という報復関税をかけてきたのです。日本政府は従わざるを得ませんでした。

10年後になります。牧本さんが日本側交渉団の団長となって不平等条約ともいべきこの協定の終結交渉を行い、代わって世界半導体会議を発足させたのです。しかしもう間に合いませんでした。「ジャパン アズ ナンバーワン」だった日本はここから転げ落ちることになります。

「失われた30年」といわれ、日本政府もようやく危機感をもって対策に走り出しています。では今、何をやるべきなのか・・・。

牧本さんは「日本半導体 復権への道」という本を出版なさいました。

スマホの時代です。チャット GPT が出てきました。空飛ぶ自動車、医療や介護、コロナで経験しましたように、これからはどこにいても仕事ができるようになります。

それらを見越して日本は、まずユーザーを育て、巨大な市場を国内に作り出し、世界へ乗り出さなければなりません。そういった事情を、これからお話いただく

ことになろうかと思っております。

もうひとつ、牧本さんのこれまでの業績についての、世界的に高く評価をされている例をいくつかご紹介しますと、

まずアメリカで、ベルウェザー賞。アルメニアで、グローバル IT 賞。

またアメリカで、ロバート・ノイス賞。名前だけではよくわかりませんが、

これらをまとめて、IT 業界でのノーベル賞に相当するというお話があります。

ということで、牧本さんへバトンを引き継ぎます。どうぞよろしく。